

# やる気・元気・信州に好機 寺沢こうき 県政報告



## 平成31年2月定例会一般質問

### 1 長野県百年企業表彰に ついて

**問** どのような目的を持って実施され、また実施後は、どのような効果が得られたか。

(産業労働部)

長野県中小企業振興条例の施行を機に、老舗企業の技術及び経営等の功績を顕彰し、活力向上等を図ることを目的とし、平成26年度に実施した。その効果としては、「従業員の皆さんのモチベーションが向上した。」「知名度やイメージの向上につながった。」などと聞いており、従業員を含め企業全体の活性化につながったものと認識している。

**問** 県のホームページに受賞企業の一覧を掲載しておいただけでは、「何のための事業だったのか」「ただの思い付きの事業だったのか」といわれ、受も仕方が無いのではないかと。受

賞企業への今後の対応、また取組について何かお考えはあるか。

(産業労働部長)

県のホームページに掲載して紹介しているほか、「シユーカーツNAGANO」において、該当企業を「社会経済情勢の変遷の中で、百年以上にわたり事業を継続し、地域社会に貢献してきた老舗企業」として発信している。今後、就活生のみならず、プロフェッショナル人材の誘致など各種人材確保事業においても百年企業の魅力を発信するとともに、百年企業の経営者に経営理念やノウハウを紹介いただくといった取組についても、商工団体等と連携をして実施していきたい。

**問**

事業の性質上、毎年とは異なるが、数年おきには実施していただきたい。もっと言えば、表彰でなくとも認定という形で、ぜひ事業を継続し、県内の老舗企業のイメージアップ、情報発信、ブランド力強化に、県としてもサポートしていただきたいが、今後のお考えを伺う。

(産業労働部長)

長年、地域社会に貢献してきた老舗企業の技術及び経営等の功績を顕彰するという趣旨からは、表彰という形が馴染むものと考えている。今後、平成26年度の表彰以降に創業100年を迎えた企業の状況を把握するとともに、経済団体等の意見も伺



いながら、要件等も含め、実施について検討していく。

要望

老舗企業の皆さんには、引き続き長野県の経済を牽引して行っていたいただきたい、そして県として、創業支援と並行して老舗企業支援を行うことにより、若い企業と老舗企業が共に伸びていく、さらには相互の連携というものも見えてくるのではないかと。1回で終わり、もっと言えば、表彰して終わりではなく、継続してさらにその先につながる取組をお願いする。

### 2 松本から首都圏への アクセス改善について

**問**

松本地域から首都圏へのアクセスは良いとは言えず、「陸の孤島」や「日本一東京から遠い地域」と揶揄されており、リニアが開通すれば益々これらの例えが現実化してくると、地域では心配の声が上がっている。一方で、アルウィンでの松本山雅の試合では、アウェイチームのサポーターが試合終了後に宿泊し、翌日は観光して帰っ

ていくという話も聞く。松本地区が現在おかれているこの環境について、観光面ではどのように影響していると考えるか。

(観光部長)

観光庁の宿泊旅行統計調査では、宿泊の目的は何か、どこから来訪しているかについての統計がないため、アクセスの良さや宿泊数との関係は不明であるが、全国の例を見ると一概に交通の利便性のみが宿泊の多寡を決める決定的な要素ではないと考えられる。今回の松本山雅FCのJ1昇格により、本県への来訪者の増加が想定されることから、これをチャンスと捉え、松本地域の魅力をフルに発揮して宿泊をはじめとする観光消費額を増やすことが期待される。地域の魅力を組み合わせることで、それを目的に一層来訪者が増えることで、結果として交通手段の充実とアクセスの向上にも寄与することを期待している。

**問**

複線化、線形改良、都内の複々線化といった特急「あずさ」の根本的な高速化について、現時点で率直に今後の可能性をどうお考えか。

(知事)

端的に言って、高速化を目指して全力で取り組むということであり、山梨県知事がずっと「中央東線高速化促進広域期成同盟会」の会長を務めていたが、長野県にとっても極めて重要な問題だということ、私も昨年までの2年間会長を務め、JRあるいは国に対する要請を積極的に行ってきた。高速化へ

は首都圏の過密ダイヤの問題、山梨県内の急カーブ、急勾配等の課題がある。これを改善していく上には、多額の事業費が必要であり、他の県あるいは国レベルにおける取り組みということが重要になってくる。関係の皆様としっかり協力しながら、取り組んでいくことが極めて重要だと思っている。引き続き、山梨県、東京都を始め沿線自治体ともしっかりと連携しながら、粘り強く取り組んでいきたい。

**問**

今回の停車本数減は、今後の布石であり、リニア開通により「あずさ」の運行本数の大幅減、さらには廃止もあり得るのではないかとこの意見もあつた。知事もこうした危機感を持って取り組んでいくべきだと思いが如何か。

(知事)

危機感をしっかりと持ちながら取り組んできている。中央東線あるいは「あずさ」は、リニア開業後も松本・諏訪地域と東京を結ぶ重要な交通手段であり続けるものと考えている。沿線地域の関係者と私も一体となつて、更なる利用促進、観光誘客に取り組んでいく必要があると考えている。2月1日の「あずさ」に関する要請に、JR東日本は「地域と連携して活性化に取り組みたい」と回答しており、地域とJRの連携も進むよう、県としても取り組んでいきたい。

**問**

諏訪湖サービスマニアに計画されているスマートICの設置は、リニア関連道路整備事業として位置づけられている。県としては、諏訪地域へは

リニア利用を推奨していくということか。

(知事)

諏訪湖スマートICは、リニア中央新幹線の山梨県駅を活用した交流拡大に資するものとして、リニア関連道路として位置付けている。

**問**

今後のリニア開通、都内の状況、過去のなかなか整備が進まなかった状況を踏まえれば、中信地区からの首都圏へのアクセス向上については、上田、佐久への道路整備を進め新幹線利用へと転換していくことも必要ではないかと思うが、知事の考えは。

(知事)

松本地域から上田、佐久地域への道路交通は、主に国道254号と国道143号が担っている。「本州中央部広域交流圏の結節機能強化」の取組として、三才山トンネルは、当初の計画より早く2020年夏頃の



無料化に向け準備を進めており、国道254号バイパス整備、国道143号青木峠区間の事業化に向けた検討も進めている。これらの取組により、松本地域から上田、佐久地域への時間短縮等が図られ、中信地域から首都圏へのアクセスの選択肢が増えることで、利便性や代替性、確実性が向上すると考えている。

〔再質問〕諏訪湖スマートICをリニア関連道路整備事業として位置付けている事は、「あずさ」の利用促進に矛盾するのではないか。

〔知事〕

その議論を突き詰めると利便性の向上は、色んな交通ネットワークの整備は止めて、既存の交通網だけを維持すればという話になるので、非常に極論じゃないかと受け止めている。「あずさ」の利用者はリニア整備と併せて、パイを取り合うという観点ではなく、パイを増やしていくという発想が非常に重要であると思っている。長野県は色んな高速交通体系が他の県に比べて整備されている地域であるので、そうした人口の流動をより活発にする方向、攻めの方向で利用者の増えたいことを目指して取り組んでいきたいと思っている。そのためには、JR東日本やJR東海他県、他の地域としっかり連携しながら、人の流動を促進していくということが重要であると思っている。

〔再々質問〕

確かにその通りだが、今後協議していくのは民間企業であるJRであり、その考えでは少し弱いのではない

か。利用者増への僅かな可能性もハングリーに拾って、利用していく、できる限りの取組をして結果を出していけない限り、JRに強く要望出来ないと思う。そういった意味では、イベントやキャンペーン等、一過性のもではなく、継続的かつ安定的な利用者増への根本的な取組が必要であると思うが、今後の考えは。

〔知事〕

観光の振興や、移住、交流の促進などで利用者増につなげていきたいと思っている。例えば、地域居住者を増やして、中央線の利用者を増やそうと考える時には、より朝早く東京に着ける、あるいは、より夜遅くに帰って来られるダイヤを作ってもらおうとか、これは今の鉄道基盤でもJRの取り組みで可能になることであり、そういうことに繋がるような利用促進に我々も取り組むことで、そうしたことをJRに訴えかけていきたいと思っている。国あるいはJR東日本に対しては引き続き様々な取組を求めていきたいと思えますし、私ども地域としても出来ることを最大限行っていくことが必要だと思っている。

要望

観光客つまり外から感覚と県民、内からの感覚、受容には違いがあるようである。また、運営側と利用者側の希望と期待も必ずしも一致しない。だからこそ県がその中間に立ち取り組んでいかなくてはならないと思う。一層の取り組みにより、JR、利用者、そして地域それぞれが望む結果となることに期待する。

一期目の一般質問内容

平成27年度

- 〔6月定例会〕県立子ども病院について
- 〔9月定例会〕特別支援学校について
- 学校での不登校・いじめについて
- 発達障がいに対応した通級指導教室について
- 小児慢性特定疾病について
- 〔11月定例会〕松本系魚川連絡道路について
- 教員の人事異動等について
- 通学路等の安全対策について
- 〔2月定例会〕暴力団対策について
- 認定こども園について
- 産業廃棄物処理施設について
- 松本養護学校について
- 教育現場での心の病について

平成29年度

- 〔6月定例会〕一般廃棄物最終処分場について
- 高校のあり方について
- 〔9月定例会〕名古屋事務所の今後等について
- 交通弱者に対する道路整備について
- 部活動の県代表への旅費等の費用負担等について
- 〔11月定例会〕信州F・POWERプロジェクトについて
- 〔2月定例会〕フリースクールについて
- 学びについて

平成28年度

- 〔6月定例会〕多子世帯応援クーポン券・プレミアムバスポート事業について
- 芸術文化施設と観光について
- 子どもを性被害から守るための条例案について
- 〔9月定例会〕ものづくり産業に対する支援について
- 交通安全対策について
- 橋梁整備について
- 〔11月定例会〕地域の強みや特性を活かした地域づくりについて
- 高等学校入学者選抜について
- 芸術文化政策について
- 〔2月定例会〕介護問題について
- 入札における積算ミスについて
- 教育委員会制度について

平成30年度

- 〔6月定例会〕教育環境整備への知事部局の協力・連携について
- 県立障がい者総合支援センターの整備について
- 高校入試制度について
- 〔9月定例会〕いじめ問題対策について
- 高校入試制度について
- 教育・子育てについて
- 〔11月定例会〕中古自動車を取引した場合の自動車税の取扱いについて
- わさび栽培への支援について
- 総合的な福祉及び障がい者支援施設の整備について
- 〔2月定例会〕長野県百年企業表彰について
- 松本地域から首都圏へのアクセス改善について

一期目に市民の皆さんから、頂いたご相談の一例。

●通学路にある見通しの悪い横断歩道に信号機を設置して欲しい。



対応前



対応後

↓交差点間の距離が短い為、信号機の設置は無理でしたが、警察署及び建設事務所と協議の上、横断歩道及びダイヤマークの塗り替え、注意喚起のドットラインの設置、外周発光装置付き横断歩道標識の設置等の対応をして頂きました。

●下水道ポンプ施設のマンホールが不安定のため、自動車通過時の音と異臭をなんとかして欲しい。  
↓下水道事務所と協議の上、改修工事を実施して頂きました。

●市内県道各所の道路及び歩道の陥没等破損箇所を直して欲しい。  
↓その都度、建設事務所に連絡し対応頂きました。

●「穂高老人保健センター」を残して欲しい。  
↓民営化及び住民との協働での運営を目指し、協議を重ねましたが、困難と判断し断念致しました。

●交通量が増え、事故も多発する国道147「新田」交差点の安全対策をお願いしたい。  
↓県警と協議の上、歩車分離式信号機（スクランブル方式）の設置が決定。30年度末に設置完了予定。

その他、様々なご相談を頂きました。継続して対応している課題もありますので、引き続き全力で取り組んで参ります。